

鹿児島県指宿市におけるキノボリトカゲ (*Japalura polygonata*) の分布について

中間 弘

The distribution of *Japalura polygonata* in Ibusuki city, Kagoshima Prefecture

Hiromu NAKAMA

はじめに

キノボリトカゲ (*Japalura polygonata*) は有鱗目キノボリトカゲ科 (アガマ科) に属し、主に樹上で生活するトカゲである。これまでに4つの亜種が認識されており、オキナワキノボリトカゲ (*J. p. polygonata*) が沖縄諸島と奄美諸島に、サキシマキノボリトカゲ (*J. p. ishigakiensis*) が宮古島諸島と与那国島を除く八重山諸島に、ヨナグニキノボリトカゲ (*J. p. donan*) が与那国島に、キグチキノボリトカゲ (*J. p. xanthostoma*) が台湾北部に生息している。九州以北の日本本土では、キノボリトカゲ科の個体群の存在は知られていなかった。

ところが、平成18年には宮崎県日南市油津でオキナワキノボリトカゲの生息が報道され、話題となった。このオキナワキノボリトカゲの生息については、OTAら (2006) の報告や末吉ら (2007) の報告によって、1998年以前から確認されていることがわかった。

しかし、鹿児島県でもキノボリトカゲの生息情報があり、これまでに調査を行ったところ、指宿市に10年以上前から生息が確認されている新たな生息地を確認できたので報告する。

なお、この調査に関して全面的な協力をいただいた西留喜久雄氏 (指宿市) に感謝の意を表す。

1 発見の経緯と調査地点の概要

キノボリトカゲが指宿市に分布する情報は、平成15年に指宿市在住の西留喜久雄氏及び指宿市立指宿北中学校からもたらされた。

(1) 指宿市東方

西留氏から「緑色のトカゲがいる。」という話があったが、それだけの情報では何であるかは皆目分からなかった。しかし、後日捕獲した個体が届けられ、キノボリトカゲであることが判明した。

発見された場所は、指宿市東方 (宮地区) にある山裾の小高い丘状になったところで、クスを中心に

イヌマキや果樹を植えた人工林である。2003年にすぐ横の土地が住宅地として大々的に造成されたが、それまでは一円が観葉植物の圃場であった。また、20～30m間隔で人家が点在し、中には温泉を熱源として観葉植物やランを育成するビニールハウスも数棟ある。北西側に山があつて冬の季節風が遮られるところであり、温泉による地熱があることから無霜地帯となっている。

(2) 指宿市立指宿北中学校周辺

2003年4月に指宿北中学校の馬場敏恵教諭から、キノボリトカゲを捕獲したので保護して欲しいとの連絡があつた。この年の定期異動で教頭が奄美から赴任されていたので、コンテナに紛れ込んでいたのではないかとの意見であつたが、その後の聞き込み等によって、常時目撃されていることが分かった。

北指宿中学校周辺は、農耕地を中心としたほぼ平坦な土地で、学校から300m圏内には20m四方ほどの林が3か所しかない。ただ、学校に隣接して2軒の園芸業者があり、観葉植物を育成するビニールハウスが数棟づつある。いずれも沖縄や奄美から観葉植物の原木を買い付けて育成している。

キノボリトカゲが目撃又は捕獲されている場所は、中学校校庭の南東部 (植え込み) と学校のすぐ横の林、学校から150mほどにある圃地横の林である。

(3) 揖宿神社境内

揖宿神社は指宿市東方 (宮地区) 内にあり、前述の指宿市東方 (宮地区) 生息場所から直線距離で約200mである。この間には多くの民家があるが、庭の植栽が多かったり竹林があるなど外敵に襲われずに移動することが可能な状況である。

神社境内はクスを中心とするあまり手の入っていない照葉樹の森で、樹齢700年以上と推定される8本のクス巨樹とボウランなどの着生植物やクシノハシダなど分布北限の植物などが見られ、2002年には鹿児島県の天然記念物に指定された。境内外周部は樹間の開いた状態になっており、林内も割合に見通

しの効く状態である。

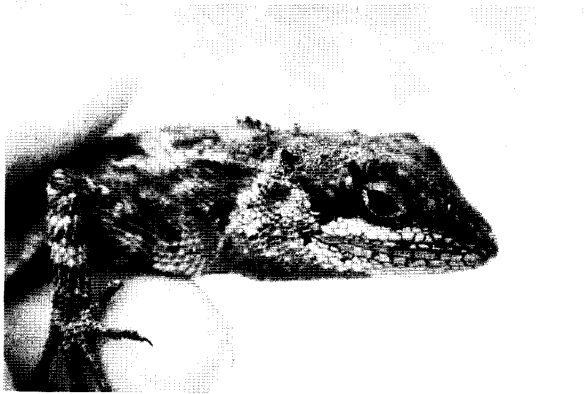
なお、(1)(3)と(2)の場所は直線距離で約2 kmあり、途中に2本の河川(川幅6 m)もあることから、自力で移動し分布を拡大したとは考えづらい。

2 これまでの発見個体

これまでに指宿市で捕獲された個体は、次の8個体である。(発見・捕獲日と場所、数量等)

- ①2003, 4, 10, 指宿市立北指宿中学校, 成体♂1匹
- ②2003, 9, 指宿市宮地区, 亜成体♂1匹
- ③2004, 10 指宿市宮地区, 亜成体♂1匹
- ④2004, 10 指宿市宮地区, 成体♂1匹
- ⑤2005, 5, 30 指宿市宮地区, 成体♂2匹
(死亡し腐敗が進んだもの)
- ⑥2005, 8, 6 揖宿神社境内 成体♂1匹
- ⑦2005, 8, 13 揖宿神社境内 成体♂1匹
- ⑧2007, 9, 7 指宿市宮地区 成体♀1匹

これ以外にも捕獲されなかったが、目撃された個体数が10頭あった。また、2005年と2006年、2007年の夏に、指宿市東方(宮地区)で分布調査を行ったが、このとき発見することはできなかった。このことから、指宿市東方(宮地区)における生息密度はかなり低いと考えられる。



⑧の個体

おわりに

今回の調査等で指宿市内に2か所のキノボリトカゲの生息地が確認できた。ここで捕獲されたキノボリトカゲは、雄の体色が鮮やかな黄緑色に変化すること、体側に縦方向に黄色の帯状斑があること、後頭部にとさか状のうろこが発達することなどの特徴から、オキナワキノボリトカゲであると考えられる。元来、キノボリトカゲは、自然状態では指宿市に分布しない。このキノボリトカゲがどのようにして指

宿市に侵入したのかは不明であるが、生息地周辺に沖縄や奄美から大量の原木を買い付けて育成する園芸業者が多いことから、これらの樹木に紛れて侵入した可能性が高いと考えられる。

本報告では、侵入経路を特定したり、侵入させたことを糾弾することが目的ではない。むしろ、すでに侵入していることを認識してもらい、今後、侵入したキノボリトカゲが在来の生態系を破壊するなどの悪影響を与えないかや生息数がどのように変化するかなどについて継続的に調査するための意識付けをすることを目的としている。現在のところ生息密度が低く、特段の影響が見られることもないので緊急の対処を要するとは考えられないが、元来の姿でないことは確かであり、今後、行政と地域住民が連携して早急な対応をすることが望まれる。

参考文献

- H.OTA,I.HOSHINO,T.SUEYOSHI,2006,
Colonization by the Subtropical polygonata
(Squamata:Agamidae), in Southeastern Kyushu,
Japan.Cue.Herpetol,25,29-34
- 末吉豊文,星野一三雄,太田英利,2007,宮崎県日
南市におけるオキナワキノボリトカゲ繁殖個体群
の発見.宮崎県総合博物館研究紀要,第28輯,1
-5
- 千石正一,疋田努,松井正文,仲谷一宏編,1996,
日本動物大百科 第5巻 両生類・爬虫類・軟骨
魚類.平凡社